

木管五重奏団 トウキョウ・ウィンズ

1部

- 三つの小品 イベール
「子供の領分」より
ゴリウォーグのケークウォーク ドビュッサー
「ボーギーとベス」より メドレー ガーシュウィン

2部

- 「水上の音楽」より アレグロ ヘンデル
クリスマス・オン・ザ・モール
(ビル・ホルコンブ編曲)
クリスマス・ジャズ組曲
(ビル・ホルコンブ編曲)
「サウンド・オブ・ミュージック」より メドレー ロジャース(ビル・ホルコンブ編曲)

冬

四季コンサート
2004

2004年12月18日(土) 6:45PM
会場: 浜松市教育文化会館
主催: 浜松音楽友の会

プロフィール

1993年、フランスより帰国した岩佐和弘との赤坂達三を中心に、主にフランス作品の演奏を目的に木管五重奏団を結成。その後、和久井仁、藤田旬、小川正毅が加わり「トウキョウ・ウィンズ」として1997年7月浜離宮朝日ホールにてデビュー。結成から10年のターニングポイントとして開催した東京公演(2004年6月オールフレンチプログラム)で成功を収めた。木管五重奏のイメージを一新する彼らの至芸はますます磨きがかかる。CD「トウキョウ・ウィンズ/ノヴェレッテ」(マイスター・ミュージック)がリリース。ホームページ www.din.or.jp/~jslwaj/

岩佐 和弘(フルート)

東京音楽大学卒業後、パリ10区立ベルリオーズ音楽院、パリ・エコールノルマル音楽院を首席で卒業。植村泰一、小泉剛、レイモン・ギヨー、工藤重典各氏に師事。1988年パリUFAM国際コンクール入賞。現在、サイトウ・キネン・オーケストラ、トウキョウ・モーツアルトブレイヤーズメンバー。

和久井仁(オーボエ)

東京芸術大学を卒業後、東京佼成ウインドオーケストラ首席奏者を経て、2001年4月より愛知県立芸術大学音楽学部講師。似鳥健彦、小島葉子、小畑善昭各氏に師事。現在、NHK交響楽団契約団員、トウキョウ・モーツアルトブレイヤーズメンバー。

赤坂 達三(クラリネット)

パリ国立高等音楽院、ベルサイユ国立音楽院、パリ市立ボル・デュカス音楽院を首席で卒業。トゥーロン国際音楽コンクール3位、パリ国際音楽コンクール1位、日本クラリネットコンクール最高位、日本木管コンクール1位。CDはウイーン室内管との「モーツアルト: クラリネット、オーボエ協奏曲」(ソニー)他多数。

藤田 旬(バスーン)

東京音楽大学卒業。霧生吉秀、菅原眞、G・ブフィツェンマイヤー、S・クリンクス各氏に師事。山形交響楽団在籍後、旧西ドイツ国立カールスルーエ音楽大学入学。在独中リューネブルク市立劇場管弦楽団在籍。現在、オーケストラ及び室内楽などで活躍。広島文化振興財団ヒロシマ・スカラシップ第6回奨学生。

小川 正毅(ホルン)

東京芸術大学卒業。山形交響楽団に在籍後、現在は山下洋輔氏と共に共演などジャズの分野でも活動している。ホルンを沖田晏宏、山本真、守山光三、千葉馨、J・ツエルミナーロ各氏に師事。現在、トウキョウ・モーツアルトブレイヤーズメンバー。(財)音楽文化創造認定の生涯学習音楽指導員資格を持つ。

木管五重奏団
トウキョウ・ウィンズ



TOKYO WINDS
CONCERT

●イベル (1890~1962) / 三つの小品

イベルは、1919年カンタータ《詩人と妖精》でローマ大賞を獲得、交響的組曲《寄港地》等を発表したフランスの作曲家である。この《三つの小品》は1930年に書かれた管楽器のための作品で、音楽的規則や従来の伝統的手法に捉われない斬新な気風に溢れている。

第1曲 短い序奏を受けてオーボエが舞曲的旋律を歌い、喜劇的な風趣を紡ぐ。

第2曲 非常に短いが、牧歌的な気分に満ちている。

第3曲 軽快な主題から展開、熱を帯びたクライマックスで結ぶ。

●ドビュッシー (1862~1918) / 「子供の領分」より ゴリウォーグのケークウォーク

《子供の領分》は「大事な可愛いシュシュ（キャベツちゃん）へ」の献辞とともに、1905年に生まれたドビュッシーの娘クロード・エマに献呈された。全曲は6曲からなっており、〈パルナス山に登る段々博士〉、〈ジンボーの子守歌〉、〈人形へのセレナード〉、〈雪は踊る〉〈小さな羊飼い〉に続く終曲がこの〈ゴリウォーグのケークウォーク〉である。作曲者にしては珍しい笑いの音楽で、アメリカ黒人音楽に起因するダンス音楽「ケークウォーク」にジャジーなリズムを巧みに取り込んでいる。

●ガーシュウィン (1898~1937) / 「ポーギーとベス」より メドレー

《ラブソディ・イン・ブルー》や《パリのアメリカ人》などで知られるガーシュウィンは、アメリカ音楽史上最も重要な作曲家の一人であり、1934年にはオペラ《ポーギーとベス》を発表した。この作品は南部の黒人の生活を描いたヘイワードの小説を台本化したもので、主要人物はほぼ黒人、黒人靈歌やジャズなども意欲的に取り入れられている。編曲者のビル・ホルコンブ（1924~）は作・編曲家であり、サクソフォン奏者でもある。トミー・ドーシー・バンドを皮切りに演奏者、編曲者として多彩な作品を手掛けた。ここでは〈序曲〉から、最も有名な〈サマータイム〉、非常に美しい〈アイ・ラヴ・ユー・ポーギー〉、そしてフィナーレ〈オー・ロウド・アイム・オン・マイ・ウェイ〉まで主要な曲がメドレーで演奏される。

●ヘンデル (1685~1759) / 「水上の音楽」より アレグロ

1717年夏、当時のイギリス国王ジョージ1世がテムズ川で舟遊びをした際演奏された曲とされている。1艘に樂士50人を乗せた大規模なもので、国王は大変満足して2度も繰り返させ、さらに晚餐時にも演奏させたと伝えられている。合奏協奏曲ではあるが組曲の性格も有しており、この〈アレグロ〉はハーティ版の第1曲（クリュザンダー版の第3曲の一部）で4分の3拍子、豪快な作品である。

●クリスマス・オン・ザ・モール (ビル・ホルコンブ編曲)

クリスマス・メドレー。ウェールズのトラディショナルとして最も有名で、明るく弾むような〈ひいらぎ飾ろう〉に続いては〈もみの木〉。ドイツでは18世紀から歌われていたと言われる曲だが、この曲とともにクリスマス・ツリーを飾る風習を英国に伝えたのは、ヴィクトリア女王の夫君でドイツ人のアルバート公だったという説がある。次にお馴染みの〈屋根の上で〉、そして古くから歌い継がれてきたイングランド西部の伝統的なクリスマス・ソング「ウィー・ウイッシュ・ユー・ア・メリー・クリスマス」で締めくくられる。

●クリスマス・ジャズ組曲 (ビル・ホルコンブ編曲)

〈ひいらぎ飾ろう〉からスタート、続いては誰もが知っているクリスマス・ソング〈聖しこの夜〉。この曲の誕生には諸説があるが、ドイツの18世紀のクリスマス・ソングの幾つかに類似、またオーストリア民謡的である。日本では「賛美歌第109番」として収められている。そして「ミスター・ビーン」の中で、救世軍のプラスバンドによって演奏される「ゴッド・レスト・ユー・メリー・クリスマス」は、日本では賛美歌第二編128番「よのひと忘るな」とされている。ラストは「ウィー・ウイッシュ・ユー・ア・メリー・クリスマス」。

●ロジャース (1902~1979) / 「サウンド・オブ・ミュージック」より メドレー

(ビル・ホルコンブ編曲)

アメリカのミュージカル作曲家リチャード・ロジャースと、作詞家で台本作家のオスカー・ハマースタイン2世（1895~1960）が出会ったのは、ミュージカル《オクラホマ！》。2人とも生粋のニューヨーカーでコロンビア大学出身。以降《オクラホマ！》でピューリッツァ賞、映画《ステート・フェア》の主題歌〈春のように〉でアカデミー主題歌賞、ミュージカル《南太平洋》でニューヨーク批評家協会賞を受賞、《サウンド・オブ・ミュージック》はこのコンビ最後の作品となった。第2次大戦前夜の実話を元にしたホームミュージカルの傑作で、有名な〈ドレミの歌〉をはじめ曲順は原作通り、最後の〈すべての山に登れ〉の前に今までの曲のフレーズが少しづつ顔を出す。